

ヤノネカイガラムシ導入天敵の分布

県果樹試験場 病虫部(現、農研センター果樹研究所病虫化学部)

研究のねらい

ヤノネカイガラムシの導入天敵であるヤノネキイロコバチ、ヤノネツヤコバチの県内における分布を明らかにし、その利用方法の検討を行った。

研究の成果

1. ヤノネキイロコバチは、調査を行った3市8町すべてで分布が確認された。本種は、分散能力が高いことからすでに県下全域に分布していると考えられ、従来利用する場合福岡、長崎、鹿児島県などの増殖県から分譲を受け1,000～10,000頭/10aを目安に放飼していたが、今後は放飼する必要はない。
2. ヤノネツヤコバチは、水俣市、本渡市、五和町、大矢野町など一部の市町でしか分布を確認できなかった。このため、本種の利用を考える場合、上記市町以外では従来通りの放飼(100頭/10a)を行う必要がある。
3. 現在、病害虫防除のため種々の農薬散布が行われている。これらの薬剤の多くは天敵への影響が大きいことから天敵単独の防除は困難である。しかし、これらの天敵による密度抑制効果は高く、ヤノネカイガラムシ防除のバックグラウンドとして重要であり、その活用は今後省農薬栽培、無農薬栽培を図る上で重要な要因と考えられる。

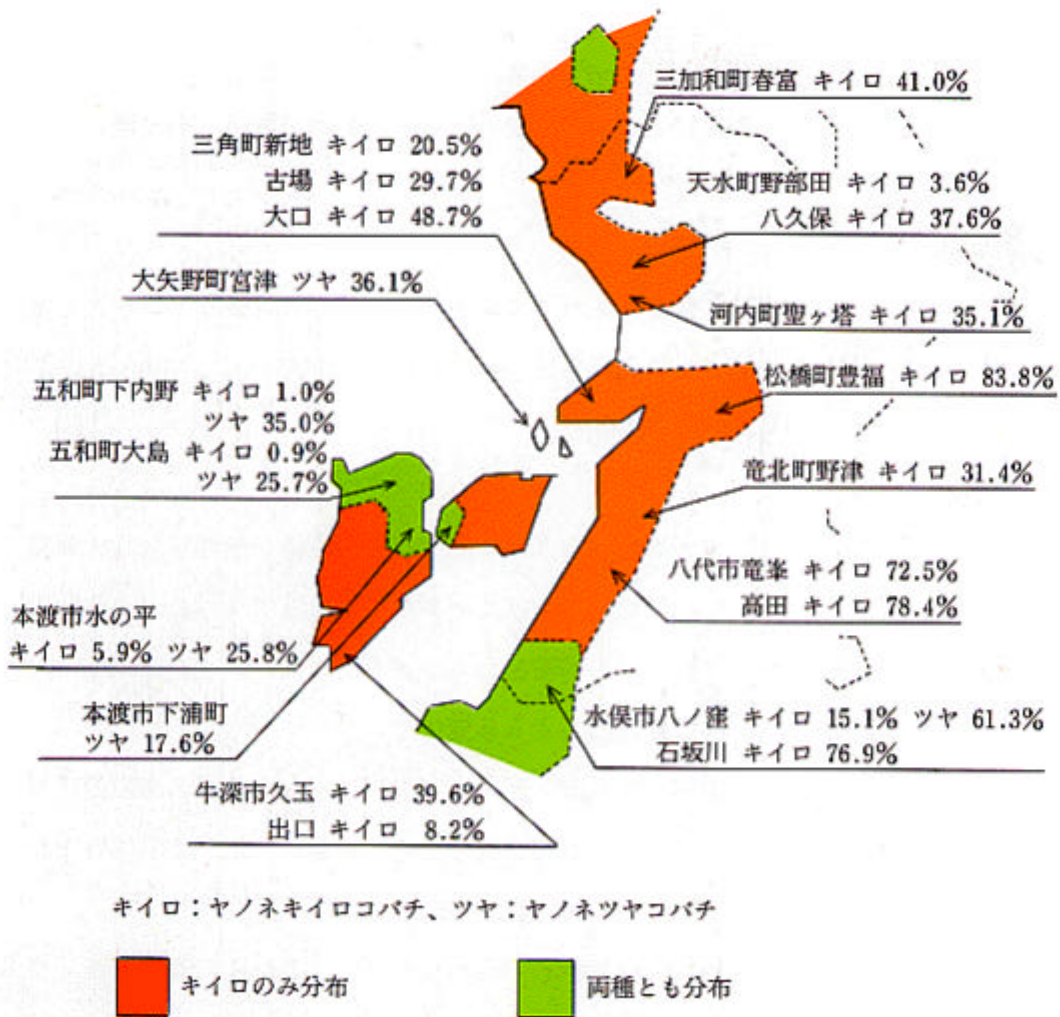


図 県内におけるヤノネカイガラムシ寄生蜂の分布状況及び寄生率